

レールライフ実践人 vol.5



レールライフ実践人では、公共交通を活用して「かしこいクルマの使い方」を実践している人々をご紹介します。

第五回目は、子育て真っ最中のご家族、廣瀬さんご一家にお話を伺いました。

3人の元気なお子さんと移動するのはさぞかし大変だと思っていたが、
車と公共交通を使い分け、教育までしてしまう廣瀬さんの考え方に深く共感しました。

廣瀬さんご一家のレールライフスタイルは子育て世代必見です。



これからお弁当を持ってお花見に行くという廣瀬さんご一家。

イベントを楽しむためによく遊びに来るといふグランドプラザで

元気に走り回る子ども達を眺めつつ、ご夫婦にお話を伺いました。

■廣瀬さんご一家のレールライフスタイル

平日：ご夫婦の通勤で車を利用

休日：バス、市電、徒歩、自転車、車を行き先、目的に応じて利用

子どもたち：バギーカー、おとうさんのひくカート、おかあさんのだっこをフリースタイルで。

長男君はそろそろ自転車に挑戦だそうです。



■富山は公共交通に慣れていない？

「私たちはお互いに東京で暮らした経験があって、富山に住んでから子育てをしています。

東京では車は必要無いですし、当り前のように公共交通を使っていましたが、

富山はそうでもないですね。

歩いている人も少ないし、公共交通も全てを網羅しているわけではないです。

バス停で1人待っている人が、なんだか恥ずかしそうに見えることもあります。

電車の乗車口やエレベーターの乗り降り、
降りる人を待たずに乗り込む人を見かけませんか？
降りる人が降りきってから乗った方がお互いに安全だし早いのに、
特に気にせず乗り降りしているように思えます。
富山で暮らす人たちは、使う機会が少ないせいか、
バスや電車をはじめとする乗り物に乗り慣れていない感じを受けています。」

■意識的に、練習する。

子ども達には公共交通をきちんと使えるようになって欲しいと思い、
意識的に公共交通を使い、子ども達に「乗り物の乗り方」を学ぶ機会を作っています。

電車やバスにはどうやって乗り降りするか。
降りる時の降車ボタンの押し方。これは押せないこともよくありますが(笑)。
少しずつ、楽しみながら学んでいます。
そもそも子どもたちがセントラムやバスに乗るのが好きなので、
乗ること自体が目的になることも多いです。

それに乗っている方々が子どもに話しかけてくれたり。
一期一会のコミュニケーションには暖かい気持を受けますね。

■まいどはやバスの活用

「まいどはやバスは、自宅から停留所が近いこともあってよく利用します。
ぐるっと1周するので、思い立った場所で途中下車しやすいですし、
本数もそれなりにあるのでありがたいです。」

(※編集部注: 日中はおよそ 20 分一本の間隔で運行しています。)

子どもが急にトイレに行きたくなった時に適当な所で降りて、

また同じバス停から乗車するというもありました。

普通のバスや自家用車では通らないような道を通るので、

あ、こんな店があったんだとか、ここは今度行ってみようという発見が結構あるんです。

おもしろいですよ。」



■バスについて少し困っていること

「以前住んでいた東京では、先払いで 200 円の統一運賃だったせいか、
地鉄バスの料金体系がわかりづらく、乗車する時少し心配になります。

富山では後払いで距離に応じた運賃がかかりますから、

遠くへ行く時は上がっていく料金を見ながら少し不安になります。

どのくらいになるんだろうって(笑)。」



■市内電車への思い

「セントラムはフラットなので子どものバギーカーが載せやすくて良いですね。

古い市電だと段差が高いのでちょっと大変です。

でも、あのレトロな車両デザインが好きなので、残して欲しいとも思っているんです。

便利さとのバランスは難しいと思いますけど、...。」

■子育てと富山、公共交通

「子どもをちょっと着替えさせたりしたいときは、公共交通より車の方が便利だったりもします。

東京のような車を殆ど使えないところで子育てする友人からは、

行く先々の大きなトイレがある場所をチェックしておくなどの工夫をしていると聞きました。

富山では車が使えなくても、歩道など全体的にゆとりがあって、

自然にも恵まれて快適に子育て出来ているので良かったなと思います。

電車やバスに乗ることも好きなので、生活スタイルにすごく合っています。

私は(奥様)ペーパードライバーで運転をしないが、

子どもが急病で病院に連れて行く必要がある時は

公共交通を乗り継いで行く必要があって不便だけど、
それ以外は不便に感じないです。」

■最後に

「カメラが好きで、公共交通や歩きだといつでも撮影できるのは良いですね。
運転中だと、いいなと思った所があってもなかなか止められないですから」
というカメラが趣味のご主人に
「でも私たちのことはあまり撮ってくれないんですよ。ライブ風景とか自然ばかりで笑」
と笑う奥様。
仲良しっぷりを見せつけられてしまった編集部でした。



■まとめ

笑顔の絶えない廣瀬さんご一家は、

- ・自然体で使い分ける交通手段
- ・意識的に乗り物を使う教育

・公共交通から発見する新しい目的地

を通して、富山での子育てとレールライフを自然体で満喫していました。

■おまけ

廣瀬さんご一家がこの後向かうと言っていた城址公園に編集部も潜入しました。

ようやく満開となった桜は本当に美しく、

良い天気の中お花見を楽しむ人々で溢れていました。

お花見などお酒も楽しむ際は、公共交通をご利用下さい。

